

令和5年度指定管理業務
指定管理者第三者評価委員会評価結果

岡崎市市民会館・岡崎市甲山閣・岡崎市せきれいホール

	I 適正性 評価	II 有効性 評価	III 効率・安定性 評価	総合評価
担当課当初評価	適	良	適	A
担当課当初評価に対する第三者評価結果	妥当	甘い	妥当	甘い
担当課最終結果	適	良	適	A

< 第三者評価意見概要 >

担当課の評価は、甘いと判断する。

適正性の評価に関して、施設管理の観点から不備等を把握した上で、どのように解決していくかを考え、適切に処理しているように見受けられる。

有効性の評価に関しては、アンケートの結果から窓口における対応等の利用者の満足度が高いことが読み取れ、また、オリジナルコンテンツの作成等により事業のアップデートを図っていることに対して一定の評価ができる。

一方で、新型コロナウイルス感染症等の社会情勢の影響があることは理解するが、目標数値の設定や稼働率の水準設定が消極的であり、事業への取組み姿勢が適切に評価されているとは言い難く、目標設定に改善の余地がある。また、事業の内容に工夫は見られるものの、実施の効果が見えづらく、評価するには不十分であると思われる。

効率性・安定性評価については、提案事業を指定管理者が自ら企画する等、経費の削減への取組みがうかがえる。

行政としては、抽象度の高い「文化の振興」を評価するに当たり質的な評価の視点を持つなど、より適切な評価を行う体制を構築されたい。また、甲山閣については、指定管理者からの意見を踏まえた文化振興施策における施設のあり方を検討し、今後の施設運営がされることを期待する。

<担当課最終結果の説明>

※ 担当課が当初の評価から変更しない場合にその理由を記載

有効性評価の目標達成項目について、稼働率の目標数値の設定について、目標設定時期が令和4年12月でコロナ5類移行前のウィズコロナの流れがありつつ、第8波が到来し、いまだ予断ならない状況からコロナの影響が続くことが予想され、令和5年度目標は慎重を期した設定としました。ところが、その後、国のコロナ対策の考え方が緩和されたこともあり、令和4年度末の最終実績が当初の予想を上回り、令和5年度目標値を超えるという乖離が生じてしまいました。こうした社会情勢が変動し、先の予測がしがたい状況の中で、目標が上手く捉えられない結果となったのは致し方ない部分があり「適」と評価しました。なお、有効性評価の7項目のうち4項目において「良」、その他は「適」と判定しており、総括基準に照らし合わせると4項目以上で「良」がある場合は「良」と判定されることから、担当課当初評価に変わりありません。

事業内容の効果については、抽象度の高い「文化の振興」の有効性を計るために、提案事業の企画内容と実施に着目して評価をしています。

市から指定管理者へは『第2次岡崎市文化振興推進計画』の基本方針の一つに掲げる「文化芸術に親しむ機会の拡充に関する事業」として、多くの市民が質の高い文化芸術に触れ、親しむことができるよう幅広い分野の文化芸術事業の実施を求めています。指定管理者が大ホールならではのフルオーケストラのクラシックコンサート等の提案事業を開催することで、質の高い文化芸術・伝統文化に直に触れた利用者がそれだけ増加したと考えられます。また、大河ドラマ放送に合わせたプログラムを組むことで、歴史文化を活用した岡崎市の周知、そして岡崎市全体の盛り上げに積極的に貢献しており、文化芸術に親しむ機会の拡充に繋がっています。

他にも、文化振興推進計画の方針としている「伝統文化の継承」として、地域固有の伝統文化を受け継ぎ、発展させていくため、市民に伝統芸能を体験する機会をもうけることも求めています。人間国宝を招いた文楽公演の開催時には、普段、施設に足を運ぶ機会の少ない層へのアプローチとして、イベントとして出演者によるレクチャーの実施により伝統芸能に関心を持つきっかけをつくりました。また、独自性のある事業として、徳川家康を題材とした朗読劇については、声優を起用することで若年層を取り込み利用者のすそ野を広げることで伝統文化の承継につながったと評価しています。

以上より、総合評価を「A」とすることは妥当であると判断しました。